

浪江町 十日市祭りに行ってきた

11月18日と19日、浪江町で十日市祭りが開催されました。

「十日市(とおかいち)は、明治6(1873)年に出羽権現(でわごんげん)【現在の浪江神社】の祭日として浪江町権現堂地区(ごんげんどう)に市を立てたことに始まります。今日まで受けつがれた、浪江町における最大の伝統行事です。

十日市の名前は、旧暦10月10日の中日として、三日間行われたことに由来するものですが、現在では太陽暦の11月下旬の土曜日・日曜日をふくむ三日間という決まりのもと、毎年運営委員会で定めた日に開かれます。

この祭りは、そもそも収穫を終えた人々が、豊年を祝い、冬に向むけて生活用品を整えるための市として始まったものです。となりの幾世橋(きよはし)地区でも同じような六日市が行われており、元来は、こちらのほうが歴史も長く、よりにぎわっていたと言われていました。しかし明治31年に鉄道が開通し、権現堂に浪江駅ができると立場は逆転し、ついに六日市は行われなくなりました。

十日市の三日間は、中心である新町通りは完全な歩行者天国となり、およそ300店ほどの露店が建ちならび、浪江町のみならず周りの市町村からの人出で身動きができないほどのにぎわいを見せます。祭りの期間中、小学生による町内会ごとの樽神輿(たるみこし)、中学生と高校生による吹奏楽の演奏、小・中学生によるマーチングバンドや鼓笛隊のパレード、町内外の団体によるよさこいおどり、小・中学生の作品展、大道芸大会など様々なまよおしが行われ、祭りはさらににぎわいを見せます。

東日本大震災後は、町内で開催できておりませんでした。2017年に場所を新町通りから秋桜アリーナ(浪江町地域スポーツセンター)に移して、復興なみえ町十日市祭として開催されています。」「(「うつくしま電子辞典 Web」)

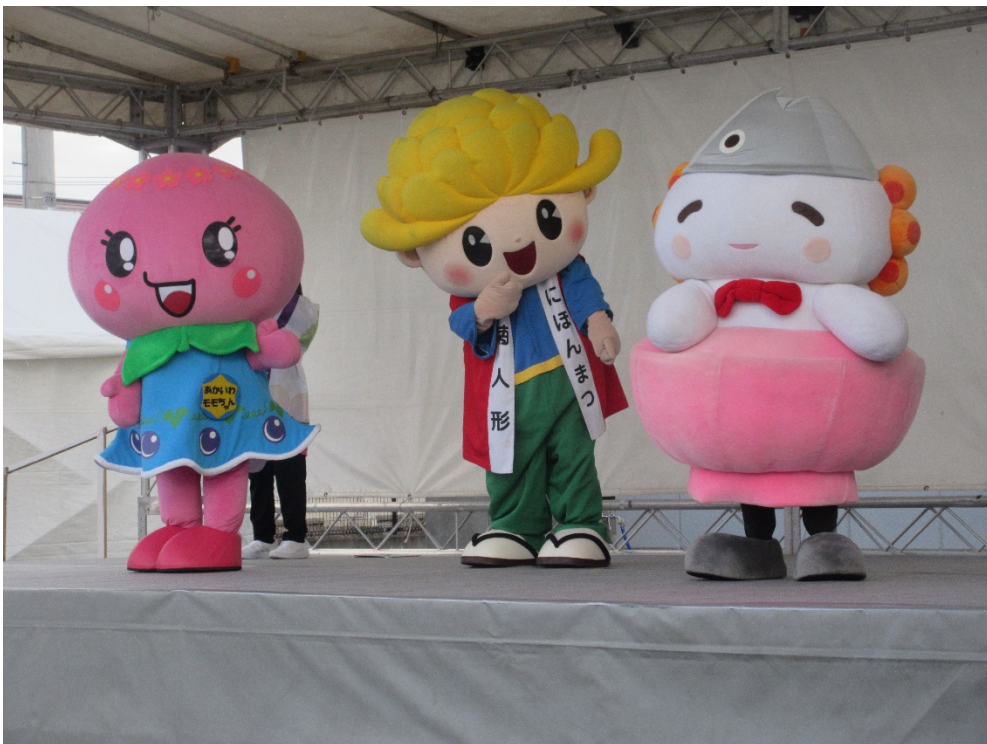
浪江町の話では、震災前は、双葉郡の大熊町・双葉町・南相馬市小高区や葛尾村からも多くの人出でにぎわって、双葉郡で最大の祭りだったとのこと。また、商店街の多くが店を出しましたが、現在は商店街にあった多くの店のは、未だ浪江町には帰って来てないそうです。

私は19日に行ってみました。食べ物の露店が圧倒的に多くて、多くの親子連れが食べ歩きを楽しんでいます。しかし、昔のような生活用品の店はほとんどありません。また、商店街の店も出店をしていますが、数が少なくあまり元気がありません。収穫や年末の季節感はほとんどありません。

屋外と体育館内には2つの舞台が設けられて、イメージキャラクターや演奏バンドが出演していました。露店には人が多いですが、体育館の中には、人は余りいませんでした。浪江町出身の民謡歌手・原田直之のステージもありました。



【多くの露店が並ぶ（浪江町 十日市祭り）】（2023年11月19日撮影）



【右端が浪江町キャラクターの「うけどん」（浪江町 十日市祭り）】（2023年11月19日撮影）